

ナバリスト 14

奥田 春菜 さん | ばりフェス実行委員会

おくだ・はるな ● 5歳のころ大阪から名張へ。高校生と小学生の2児の母。平成28年に消防団に入団。応急手当指導員・防災士・赤十字救急法救急員の資格を持つ。市のブランドロゴ創出ワークショップへの参加をきっかけに「ばりフェス実行委員会」を立ち上げ、名張の魅力を発信中



ばりフェス実行委員会



アンダー1などによる防火啓発。消防団活動も楽しみながら積極的に



名張の魅力を楽しく話し合い、ブランドロゴ案を創出。ばりフェス開催の原点に



ばりフェスでは、運営ボランティアや出店者などとの新たな出会いも

名張愛を広げたい！まちのツナガリスト

市のブランドロゴ創出ワークショップでは、40人ほどの参加者と、合わせて800もの名張の魅力を出し合いました。中には私の知らないこともあってワクワク！これはぜひ、みんなにも知ってもらいたいと、「名張が大好きなら、隠れてなんかいられない」をテーマに「ばりばりなばりフェス（ばりフェス）」を開催することに。ワークショップで意気投合した仲間も誘いました。

名張の大きな魅力は「人」。まちの保健室の職員さんは、私たちの気持ちをうまくくほぐしてくれ、移動図書館の乗車スタッフは子どもたちに優しく、消防団の皆さんも頼りになる人ばかり。そんなみんなに出会ってもらいたくて「ばりフェス」への出展を依頼。グルメや特産品、魅力あるパフオーマンスなど、来場者には、知られざる名張を発見してもらいたいし、一緒に発信する「ばり友」になってくれると嬉しいですね。

私の名張愛が膨らんだのは、子どもが小さかったころ。地域の皆さんに優しく手を差し伸べてもらい、名張っていいな、人のつながりの中で子どもを育てたいと思うようになっていきました。気付けば、私の勤めるガス会社の事業や、「子どもの命を守りたい」と入団した消防団、そして「ばりフェス」などで、次々に出会いが生まれています。人のつながりを大切にしながら、家族と名張で楽しく暮らし続ける。それが私の生きる道です。

編集後記

「巡る因果は恨みじゃなくて恩がいいよ。恩が恩を生んでいく。そんなめでたい話がいい」とは大河ドラマのセリフ。子どもたちのために取り組む人がいて、子どもたちが世話になったと名張のために取り組む人がいる。今月号はそんな名張の話を届けます（たか）

4月20日、サンロードフェスと宇流富志禰神社の春季例大祭が同日開催されました。新しいイベントと古くからの行事とが相乗して、たくさんの方が集まり、大にぎわい。名張の人の活力を感じ、元気をもらって帰ってきました（くま）

公園で思い出すのは、転んで泣いたとか、遊具の上で降りられなくなったとか、ハプニングの記憶ばかり。「楽しんでほしくていろいろ連れて行ったのに」と母に呆られました。子どもの頃の記憶って、強烈なものほど残るんですね（はるな）



名張のひと・活動

